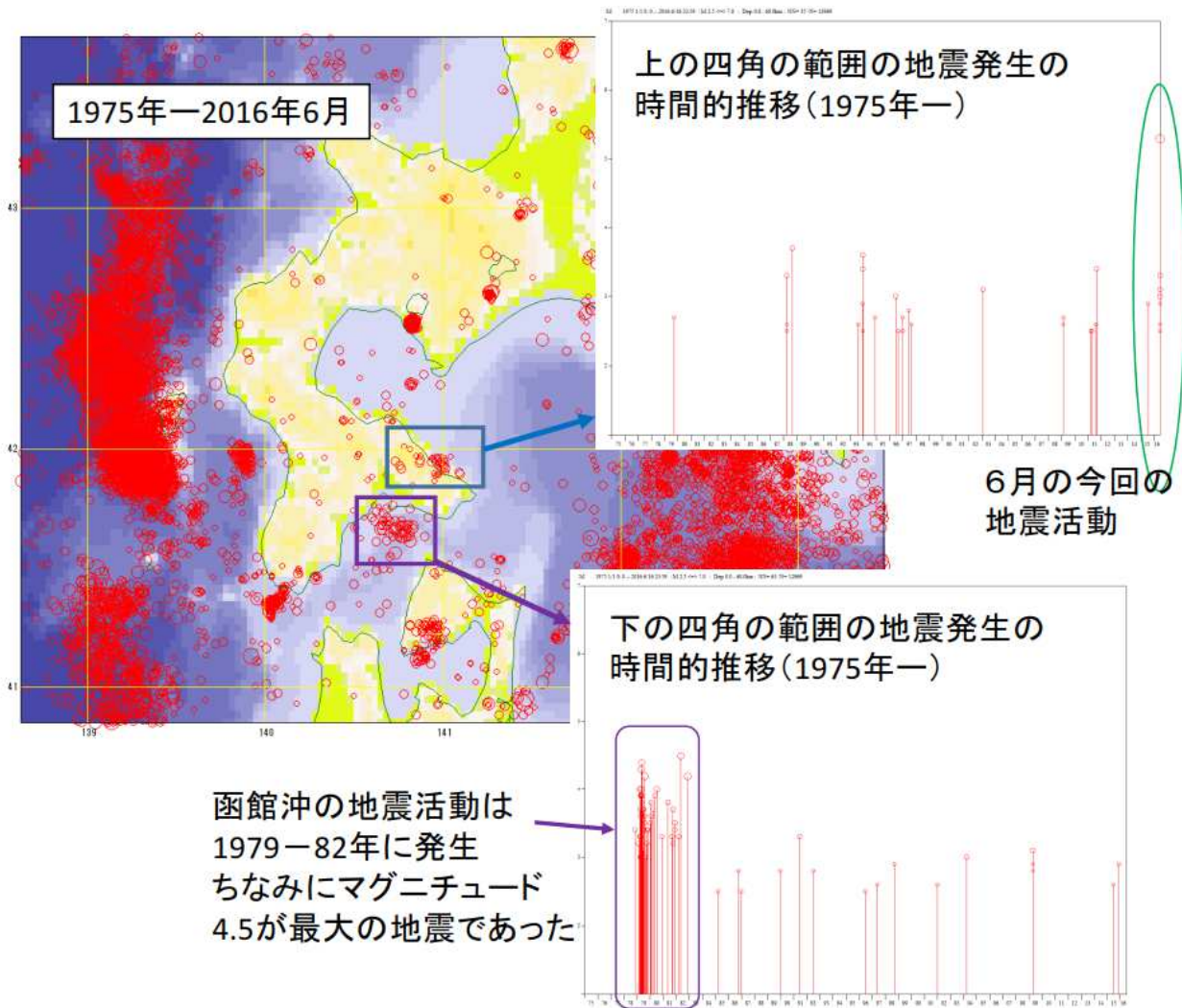




6月16日に函館近傍で震度6弱を記録した地震について

16日14時すぎに函館近傍で発生した地震では震度6弱という大きな揺れが記録されたため、メディアでも大きく取り上げられました。ただマグニチュード(M)は5.3と中規模であり、震度6弱は1地点、さらに震度5強は観測されず、震度5弱が1地点という極めて局所的に大きな揺れとなった地震でした。これは熊本地震と同じく、震源の深さが約10kmと非常に浅いためでした。下の図は1975年以降の40年以上の地震活動を図示したものです。いずれの図も横軸が時間で1975年1月から2016年6月で、縦軸がマグニチュードとなっています。函館近傍では、今回の場所(図中の上側の四角)では、マグニチュード4を超えるような地震は初めての事でした。

また函館の南側の津軽海峡では1979年から82年にかけて少しまとまった活動がありましたが、最大の地震はマグニチュード4.5で、今回のように陸域でマグニチュード5を超える地震は過去40年間では発生していなかった事もわかりました。

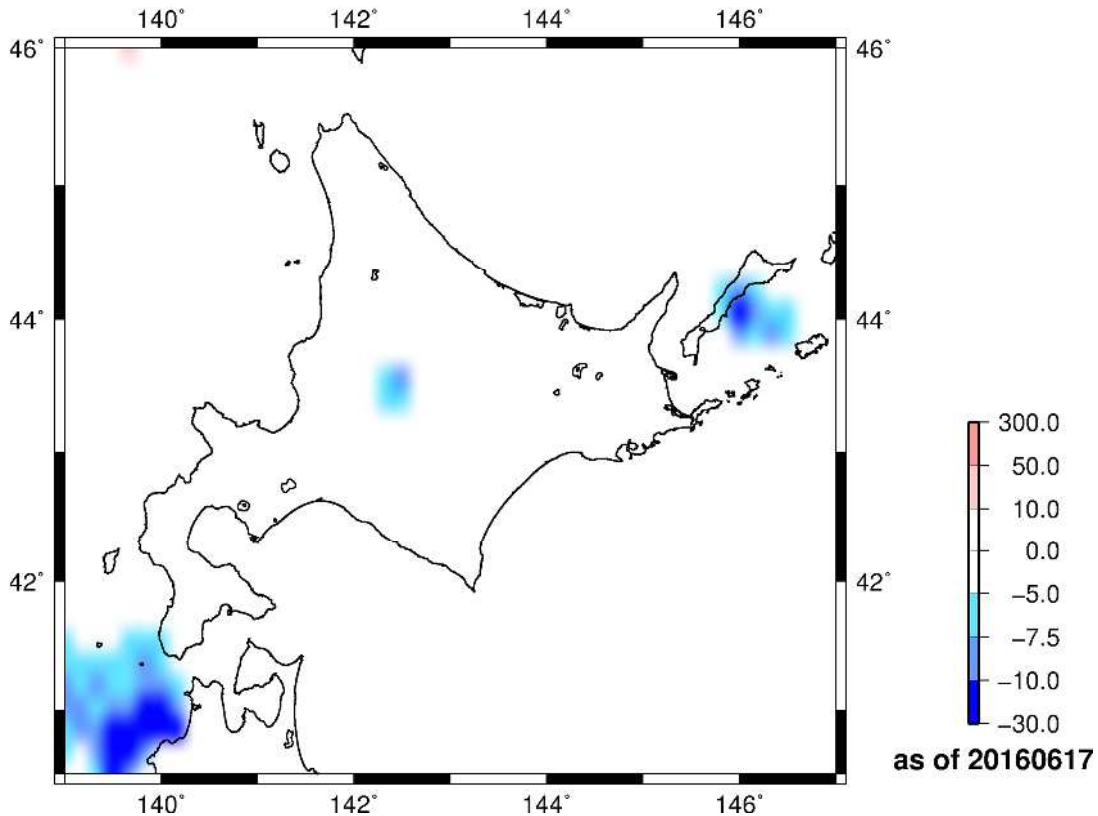


また、16日の地震の余震活動は順調に減衰しており、熊本地震のようにさらに大きな地震が発生するとは思えない状況です(現在の地震学の知見では、このM5.3の地震が“前震”である可能性はほぼゼロと考えられます)。



## 北海道およびその周辺の地下天気図®による解析

今回はマグニチュード7クラスの大震災発生の可能性が北海道およびその周辺であるかどうかを解析してみました。下の地下天気図は6月17日時点のものです。北海道には顕著な地震活動静穏化（図中で青くなっている部分）は観測されていないことがわかりました。



下の地下天気図®は左側が今年の1月1日、右側が3月1日のものです。津軽半島の西側に少し気になる異常（青で示された静穏化領域）が継続して出現している事がわかります。こちらの異常については継続的に監視していきたいと思えます。

